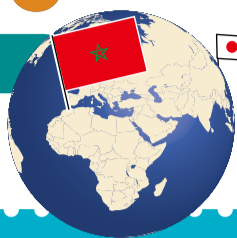


地球ひろば

ともにつくる ぼくらの未来

協力: JICA (ジャイカ)
https://www.jica.go.jp/hiroba/

モロッコ②



- 国名 モロッコ王国
- 面積 44万6000平方キロメートル (西サハラ除く、日本の1.2倍弱)
- 人口 約3528万人 (2016年、世界銀行)
- 民族 アラブ人 (65%)、ベルベル人 (30%) など
- 言語 アラビア語とベルベル語が公用語、フランス語
- 宗教 イスラム教 (国教) スンニ派がほとんど
- 時差 9時間 (日本が進んでいる、現在はサマータイム期間なので8時間)

続けられる漁業に

アフリカ大陸の北西部にあるモロッコは、漁業が盛んな国です。漁獲量はアフリカで1位。モロッコ産のタコは日本にも多く輸出されていますから、スーパーなどで見かけることもあるでしょう。

モロッコの小さな漁村では、小型の船で漁をしています。モロッコの海は冬になるとかなり荒れるので、以前は何か月も漁に出られないこともありました。漁ができないと収入が途絶えますから、生活は安定しません。荒海の中、無理に漁に出て命を落とすこともありました。

港を整備 漁協を設立

漁が終わると船が流されないように、浜に船を揚げます。これが大変な重労働で、さらに、浜には水も電気もなく、衛生管理もできていない状況でした。



①日本の支援で水揚げ場が整備された漁村。②同じ場所の20年前の様子



そこで日本の支援で漁港が整備されました。

船を浜に揚げる作業や、漁で取った水産物の水揚げが安全にできるようになり、過酷な労働環境が改善され、近隣の人々にも新鮮な魚をいつも提供できるようになったのです。



モロッコの市場。魚を立体的に配置するなど、ディスプレイに結構こだわります。魚介類の種類も極めて豊富です。

また、漁業を安定して続けるには、漁民たちが皆で協力して問題を解決できなくてはなりません。JICAの専門家が支援したのが、漁業協同組合(漁協)の設立です。モロッコに漁協ができるのは、初の試みでした。

漁協ができたことで魚の販売が安定して行えるようになり、万が一働けなくなったときにも生活できるよう、社会保障制度(年金や労災など)も導入されました。

水産資源を守る活動

モロッコの都市部にくらべ、地方の地域では、若者の失業率も高く、仕事もそれほどありません。生活がかかっていますから漁で乱獲してしまうこともありました。

しかし無計画な漁は、海の生き物を再生できなくし、水揚げ量が安定しないことにもつながります。豊かな海を守るためには、水産資源の調査が必要です。日本はモロッコの水産研究所に調査船を提供し、調査のやり方を共に改善し、海の資源を守る計画づくりに力をそそぎました。

モロッコ水産行政 アドバイザー／国際協力専門員 杉山俊士さん



JICA青年海外協力隊としてソロモン諸島への参加をきっかけに以後一貫して国際協力の仕事をしています。水産資源管理や漁村振興が専門分野で、マレーシアでJICA専門家、タイとイタリアで国連食糧農業機関水産専門官などを経てJICAの国際協力専門員として活動。2017年6月からは水産行政アドバイザーとしてモロッコの海洋漁業庁に赴任しています。

その結果、今では、漁をしないう時期を決めるなど、数々の資源管理の取り組みがされるようになっていきました。また、漁協が中心となり、各地の漁村が自分たちで漁場の環境を守る活動も続けられています。

途上国同士の「絆」支援へ

1979年、モロッコの水産訓練校に船を提供したことに始まった日本の漁業分野の支援ですが、約40年たった今、モロッコは、日本と一緒に歩んだやり方を、アフリカの他の国に広める役割を担っています。

日本が行う国際協力は、単に開発途上国に支援を提供するだけでなく、途上国同士の絆を深め、共に問題解決に取り組む仲間づくりにも貢献しているのです。



アフリカ諸国の研修員と共に。前列右端が杉山さん

はじめよう SDGs

しら調べてみよう
かんがえてみよう



Q1 海があることで、自分の暮らしによかったと思うのは、どんなことだろう。

Q2 海の環境について、どんな問題が起きているか、調べてみよう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals)
2015年に国連の場で加盟国が決めた30年までの世界の目標です。



地球の70%を覆う海に、たった1個の細胞しかない生物から巨大なクジラ

14 海の豊かさを守ろう



地球を満たす命の源

まで、確認できています。でも約25万種がいます。人間にとって海は、たとえば、おいしい魚や塩などの産地であり、海水浴を楽しむ場であり、海との関わりは幅広く、欠かすことのできない存在です。しかし、近年は人間が魚などの海洋資源を取りすぎたり、ごみを捨てて海を汚してしまったり、さらに地球温暖化の影響で、海洋資源は深刻な危機に陥っています。SDGsのゴール14は、海の豊かさを守るために、国を超えたルールづくりなど、具体的な取り組みをするよう呼びかけています。